

ま ち の 話 題



若い者にはまだ負けんよ！

6月9日、第一回九州還暦軟式野球大会福岡県大会が久留米市で行われ、小郡シニアクラブ(原憲一監督ほか22人)が県代表に選ばれました。還暦野球は年齢が58歳以上の人が対象で、県内には10チームが登録されています。今回の福岡県大会には、9チームが参加し、若い者にはまだ負けんよと、俊敏な動きをみせていました。原監督は平均年齢が63歳と野球経験も良い年齢を重ねてきましたが、まだまだ負けないうもりでやっている人が多いいですね。でも、痛いとか、こるとかいろいろありますよと笑顔で話していました。なお九州大会各県2チーム、計16チーム)が9月1、2日、佐賀県嬉野市などで開催され、シニアの選手たちが熱戦を繰り広げます。



家族で田植え体験

7月1日、親子ふれあい田植え体験が市内の家族約30人が参加して行われました。この田植えは、元農業委員佐藤良一さん等の指導のもと、今限の水田で行われ、ヒノヒカリの苗を7アールの田んぼに1本1本植えました。希みが丘から参加した山下さんは、「虫がいたり鳥の足跡があったりする田んぼで、家族が泥んこになりながら田植えをして楽しかった。食物の大切さを改めて感じることができました」と話し、家族のきずなを深める行事となりました。10月には、稲刈り体験教室を開く予定で、主催した田笠富子さん(今限)は、「生産者と消費者とのふれあいを通じて食の大切さと地元の食文化に関心をもってもらいたい」と話していました。

随想 60

母からのプレゼント 西村栄子(横隈)

去年、母が私の小学校から高校までの通知表を手渡してくれました。日々の忙しさに紛れて幼い頃を振り返ることもほとんどなく、生まれていきなり大人になったような気持ちで毎日を過ごしていますが、セピア色をしたそれを開けると、その時々「私」に出会うことが出来ました。引越したばかりの小1の頃、友だちもなく、とても内気で小学校が怖くさえ感じていました。鉄棒も跳び箱も出来なくて体育の時間はズル休みすることも。小3の頃、クラスの友だちが私を学級委員に推薦してくれました。それがとてもうれしくて、その時から少しずつ積極的になれたような気がします。小4になると初めてのクラブ活動…私は音楽クラブに入りました。今人気の黒木瞳さんは2年先輩で今思うと不思議ですが、昼休みになると二人約束をした訳でもないのに一緒に練習をしていました。その時、彼女がわたし用に譜面を手作りしてくれていました。いつも彼女が手に持っていた白いハンカチが眩しかったのを覚えています。



中学生になると、運動が下手だと思っていた私は文化部を希望していましたが、友だちから「女子バスケット部のキャプテンがかっこいいから入ろう」と誘われて何となく入部したのですが、バスケットに出会えた事で「私にも出来るんだ」と自信がつき、それから体育が得意になりました。

「出来ないのではなく目覚めるきっかけに会えていないのだ。やってみないとわからない。あせることはない」これは、その時からの私の教訓となりました。高校時代もバスケットの熱は冷めず、汗も涙もともに流した友達とは、卒業してかたりの時が流れた今でも、時々会っては交友を深めています。

私には3人の子がいます。その子ども達が幼い頃から描いた絵をファイルしています。裏にコメントをつけて…。楽しかった時、悲しかった時、苦しかった時。いろいろあったけれど、あの頃があるから今の自分があるんだ！と、振り返られるよう、母が私にしてくれたように私も子ども達に、自分を振り返ることの出来るたくさんの思い出を残してあげたいと思っています。



次号(10月号)は、松藤良子さん(みくに野団地)にリレーされます。